

鈴木りょう

最終テスト、全ての日程を終え日本に帰国しました。9月は最後の月ということで、部屋の片付けをしたり、帰る為の手続きをしたり、友達とお別れ会をしたりといろんなことをしてあっという間に過ぎました。

9月の学校生活

最終週には最終テストがありました。これまでと同じように、リスニング、長文読解、作文のテストを受けました。今まで一番難しかったですが、これまでの知識を使って答えることができました。別の日には、単語当てゲームをやりました。カードに書かれた単語に関係するものを説明して、みんなに単語を当ててもらうゲームです。単語の知識、語彙力、理解力が必要になるゲームで、留学を締めるのにぴったりなゲームだと思いました。単語を説明する役割をした際に、単語をクラスメイトに伝えることができ、単語を当てることもできたのでフランス語の向上を少し感じた授業でもありました。

学校最終日の放課後は、友達おすすめのベトナム料理屋に行って、最後に一緒にご飯を食べました。その後も、カフェに行っている話をしました。ご飯を食べてか

ら寮に帰っている間、今までの留学生生活を振り返っていました。最初は不安ばかりでしたが、こんなに親しい友達ができ充実した生活が送れて、留学に来て良かったと思いました。いつも一緒に過ごしていた友達と別れる時は寂しい気持ちがありましたが、いつかまた会う日を作れるようにしたいと思いました。

留学を終えて

フランス語を向上させることができた

留学をする前は、話す機会がとても少なく到着したばかりはフランス語を話すことができず、抵抗感もありました。また、留学の終わり頃になっても理解できないことが多くあり、悔しく情けない気持ちになりました。しかし、留学前と比較したら文をすらすら書けたり、周りとのコミュニケーションをとったりすることができるようになったことは少し成長したと言えると思います。フランス語を話すしかない状況になったのでたくさん話しているうちに、自分の考えを話すことができるようになったと思います。

自信がついた

初めての一人海外、一人暮らしでうまくフランス語を話すことができない状況で始まった留学でした。どうやって生活していくのか、いろんな手続きも時間がかかり不

安になることが多くありました。でも、周りの友だちに聞いたり、自分で調べたりして課題を解決しながら生活を送ることができました。そんな生活を通して自分に自信が付き、なんでもできる精神が付いたことはこれからの生活に大きく役立つと思います。

海外のことが身近なことになった

フランスや友達の出身国についてのニュースを見ると、今までより自分ごとのような気持ちで受け取るようになったと思います。海外の出来事により関心を持って見ることができるので面白いです。

日本をもっと好きになった

フランスで毎日のように日本の食事、温泉、家族などが恋しいと思いながら生活をしていました。日本を離れたことで、今までの当たり前が自分の軸になるものであり、それらは当たり前ではないと感じました。また、周りの人に感謝する気持ちが一層強くなりました。帰ってきてからは、日本を目一杯楽しむことができます。

フランスに行かなければ出会えなかったであろう日本や海外の友達にたくさん出会うことができました。8ヶ月間は本当に良い経験となり、思い切って留学に挑戦して

良かったと思います。留学を実現させてくれた家族や学校の先生と職員さん、留学先で出会った友達に感謝し、この経験をこれからの人生に活かしていきます。

